

『赦されない罪』

'20/10/04

聖書箇所: マルコの福音書 3 章 20-30 節 (新約 p.69)

イエスは、**マタイ 11 章で、『28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。』**とおっしゃって、すべての人を招いてくださっています。また、この聖書にも、『**神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。』**(I テモテ 2:4)と書かれています。

⇒このように、**天の神様は、すべての人たちが救われることを望み…、そのための道を備えてくださっています。**もちろん、たった今確認したように、あのイエス様だって、「わたしのところへ来る者は、誰でも休ませてあげます…。救われることができる！」ということをおっしゃっています。

命題: 頑なな者たちに対して、イエス様が話された反論と警告!

しかし、今日のみことばをご覧くださいと、なんと、そこでイエス様は、『**しかし、聖霊をけがす者はだれでも、永遠に赦されず、とこしえの罪に定められます。』**とおっしゃって、「実は、赦されない罪があるのだ！」というような、非常に厳しいことをおっしゃっています。果たして、「赦されない罪」とは、一体、どのようなものなのでしょう?…今から 2000 年前、一体、イエス様は、どのようなことを語り、どのようなことを教えられたのでしょうか? また、私たちには、何が必要で…、どうしたら救われるのでしょうか? 今日のみことばは、そういったことについて考えさせてくれるものであると思います。

聖書のみことばは、マルコ 3:20-30 になります。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、マルコ 3:20 以降をお開きください。そこから、今日私たちは、「今から約 2000 年前、イエス様に対して頑なであった者たちに対して、イエス様が話して下さった反論や警告について、一緒に学んでいきたいと思ひます。そうすることによって、願わくは、私たちが、イエス様のメッセージをよく理解することができ…、このイエス様が与えようとして下さっている救いの恵みを受け取ることができますよう願ひます。

I・当時の者たちの 混乱ぶり! (20-22 節)

まず、今日のみことばの内、マルコ 3:20-22 をご覧くださいと、**最初に訴えられてるのは、この当時の者たちが起こした“混乱ぶり”であります。**…もちろん、この当時には、イエス・キリストという、真の神様が私たちと同じ人間となって来て下さって、たくさんのお話をしてくださっていたわけで、そこで、多少の混乱が起こることは致し方無いと言うか、止むを得なかったとも思ひますが、それにしても、「これはヒドイ!」と思ってしまうようなことが、この時代に起こってしまっていました。マルコ 3:20-22 には、このように記されています。

- 20 イエスが家に戻られると、また大ぜいの人が集まって来たので、みなは食事する暇もなかった。
- 21 イエスの身内の者たちが聞いて、イエスを連れ戻しに出て来た。「気が狂ったのだ」と言う人たちがいたからである。
- 22 また、エルサレムから下って来た律法学者たちも、「彼は、ベルゼブルに取りつかれている」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」とも言った。

●イエス様の 身内 さえ巻き込まれた!

まず、ここ 20 節をご覧くださいと、イエス様が「家に戻られた…」とあるので、これは、恐らく、私たちが何度か写真で見た、あのカペナウムのシモン・ペテロたちの家のことを言っているのだらうと思ひます。すると、そこにもまた、大勢の者たちが集まってきていたことが分かります。そのため、イエス様の一行は、

食事さえ、満足に食べることができなかつたと、このみことばは教えてくれています。でも、そういったことは、大したことはありません。問題は、その後です。

その後、この 21 節をご覧くださいと、そこに、**イエス様の身内が、イエス様のことを連れ戻しに来ていたとあります。**…と言いますのも、ここに書かれていますように、イエス様のことを「気が狂った!」と言って、わざわざ、ガリラヤのナザレにまで、イエス様のことを連れ戻すよう、進言した者が恐らくは居たからです。…皆さん、分かっていますか? 実は、今回は、現代の地図で説明させていただきます。まずは、ここが当時、イエス様たちが活動していたカペナウムです。そのすぐ南には、ガリラヤ湖があります。そして、今度、ここがイエス様の家族が住んでいたナザレです。カペナウムから、ナザレまで…、最短でも 40km、恐らく 50km 以上の距離です。まあ、正直言って、丸 1 日ほど歩けば、移動できないほどの距離ではないと思ひます。…しかし、この時のイエス様は、31-32 歳でしょうか? 皆さんも、ご存じのように、この当時、まだ、イエス様の家族は誰も、イエス様のことを、真の神であり…、約束の救い主であるという、「確固とした信仰」は持っておりませんでした。

でも、皆さん、どう思われますか?…この時、イエス様は公の生涯に入って、救い主として、福音のメッセージを…、救いのメッセージを人々に語って下さっていたのです。…そんなイエス様のことを「あなたの息子の気が狂っている! 何とかしろ!」みたいなことを言われたら、…正直、家族からしたら、連れ戻しに行かないわけにはいかないでしょ?…でも、正直、30 歳を超えたイエス様のことを、わざわざ、家族が 1 日かけてやって来て、連れ戻しに来たら…? 皆さんなら、どう思われますか?…でも、そんなことを、この当時の者たちは、してしまったのです。一体、イエス様は、この時、どんなお気持ちであったでしょう? まあ、このことについては、できれば、来週の礼拝でも学んでいきたいと思ひます。

●イエス様のことを 悪魔 呼ばわりした!

しかし、それだけではありません。その次の 22 節には、さらにスゴイことが記されています。ここ 22 節には、エルサレムから下って来た律法学者たちがいて、イエス様のことを、「あいつは、ベルゼブルに取りつかれているのだ!」と言ったとあります。実は、この『ベルゼブル』という言葉は、イエス様に対するとんでもない…、ある意味、史上最低最悪とも言い得る侮蔑語(=他者を侮り、蔑み、馬鹿にして、ないがしろにする言葉)なのです。…と言いますのも、まず、この言葉が、何となく、『悪霊どものかしら』を指すような言葉であるということは、この文脈から分かりますよね。

実は、この『ベルゼブル』という言葉は、アラム語で言う、「牛や馬(=家畜)のフンの神」、「肥やし」の神」という意味に、非常に近い発音で…、イスラエル人たちは、その元々の言葉を少しだけ変えて、『ベルゼブル』という言葉にして、イスラエル人たちはそれを本当に忌み嫌うものとして扱い、そして、その名を悪魔に与えたのです…。

つまり、このみことばが何を言わんとしているかと言いますと、当時の者たちは、**イエス様のことを悪魔扱いした!**というわけなのです。だって、ここ 22 節でも、イエス様のことを「悪魔」呼ばわりして…、「イエス様が、悪霊どものかしらに取りつかれているから、悪霊どもを追い出せるのだ!」と言っているわけでしょ?…それは、まるで、イエス様のことを、「お前は悪魔だ!」と言っているに等しいのです。だから、そのすぐ後の 23 節をご覧くださいと、「サタンが、一体どうやって、サタンを追い出せるのか!」と、イエス様が反論しておられるでしょ?…あろうことか、この当時の律法学者たちは、私たちの救いのためにやって来て下さった救い主のことを、何と、悪魔呼ばわりしたのです…。それが、ここ 20-22 節で記されている内容です。

II・イエス様がなされた、律法学者たちへの 反論! (23-27 節)

その次、今日のみことばの 23 節以降で、そのイエス様がなされた、律法学者たちに対する“反論”が記されています。今日のみことばの 23-27 節には、こう記されています。

23 そこでイエスは彼らをそばに呼んで、たとえによって話された。「サタンがどうしてサタンを追い出せましよう。

24 もし国が内部で分裂したら、その国は立ち行きません。

25 また、家が内輪もめをしたら、家は立ち行きません。

26 サタンも、もし内輪の争いが起こって分裂していれば、立ち行くことができないで滅びます。

27 確かに、強い人の家に押し入って家財を略奪するには、まずその強い人を縛り上げなければなりません。そのあとでその家を略奪できるのです。

●律法学者たちの 矛盾点

ここで、イエス様が言われたことは、律法学者たちの“矛盾点”であります。「サタンが、一体どうして、その仲間であるサタンたちを追い出せるのか？」…つまり、イエス様がおっしゃりたかったことは、内輪もめであります。だから、その後の、24-26 節でも、一貫して、イエス様は内輪もめに関する例え話をされるわけです。それが、どんな集まりであろうと、そのグループの中で、内輪もめを起こしていたら、ほとんど、勝ち目はありません。そのグループは立ち行きません！…そうでしょ？

良いですか、皆さん。サタンやその仲間たちの目的は、神様に反抗し、その神様の御計画の邪魔をすることでしょう？…だから、前にも見たように、サタンのしもべである悪霊たちも皆、そのサタンに倣って、何とかして、イエス様の働きをジャマしようとするわけです。…だから、イエス様は、「じゃあ、なぜ、わたしは、その悪霊たちを、その取りつかれた者たちから追い出してやるのか？そんなことをすれば、悪霊たちのグループ内で、足を引っ張り合っているのと同じじゃないか！」と言うわけです。…確かに、そうでしょ？

どうぞ、皆さん。もし、できたら、今日のみことばの平行記事であるルカ 11:19 をお聞きください。そこには、こんなことが記されています、『もしもわたしが、ペルゼルブによって悪霊どもを追い出しているのなら、あなたがたの仲間も、だれによって追い出すのですか。…』って…。

⇒このみことばから、何が分かるのでしょうか？…実は、この当時は、律法学者たちも、悪霊を追い出していたのです。悪霊を追い出していたのは、イエス様だけじゃなかったのです！…それはそうですよね？だって、この当時は、たくさんの悪霊たちがいて、いろいろと“悪さ”をしていたのです。それこそ、人を病気にしたり、凶暴にして叫ばせたり暴れさせたり、あるいは、口をきけなくなったり…、占いをしたり…、といった具合です。

そんな場合、イエス様が、この地上に来られる前、あるいは、イエス様がおられない地域では、誰が、そういったことを依頼されていたのか？…というと、それが、律法学者たちであり…、パリサイ人たちであったのです。…と言いますのは、彼らこそは、真の神様に仕え…、その神様の力を託された者たちであったはずだからです。…そうでしょ？…しかし、実際に、どの程度、当時の律法学者たちが、悪霊たちを追い出せたのか、そういったことは分かり得ません。恐らくは、ほとんど、できなかったでしょう。だから、当時の人たちは皆、イエス様のなしてくださる奇蹟に驚いて…、イエス様に熱狂したわけです。

そういったわけで、その効果に大きな差はあったでしょうけれども、この当時は、律法学者たちだって、少し位は悪霊を追い出したり…、病気を治すために、神様に祈ったりということをしていたわけです。…なのに、彼ら律法学者たちは、自分たちが悪霊を追い出せたら、それは自分たちの手柄！しかし、イエス様が悪霊を追い出していたら、それは悪魔の仕業である！というわけです。それって、どこにその違いがあるのでしょうか？…おかしいでしょ！というわけです。

一体、何が違うのでしょうか？一体、何をもち、律法学者たちは、イエス様が悪霊を追い出したら、「それは、悪魔の仕業である！」なんて言い得るのでしょうか？…もちろん、そこには、何の根拠もありません。

ただ、彼らは、イエス様のことを認めたくなかったのです。だから、イエス様が何をしても、それは悪魔的だ！それは、神の命令に背いている！間違っている！と、難癖を付けたのです。

●イエス様が持っておられた 目的

今、皆さんは、ルカ 11 章を開いてくださっていると思いますが、ここルカ 11 章は、すぐ後で、また開きたいと思しますので、ここに葉が何か挟んでおいてくださって…、どうぞ、もう1度、今日のみことばであるマルコ 3 章に戻ってくださいます？ここで、イエス様は、律法学者たちに反論する中で、イエス様は、ご自分が持っておられた戦略と言うか、その“目的”について教えてください。それが、マルコ 3:27 です。ここで、イエス様は、こうおっしゃっています、『確かに、強い人の家に押し入って家財を略奪するには、まずその強い人を縛り上げなければなりません。そのあとでその家を略奪できるのです。』って…。これは、どういう意味なのでしょう？

⇒実は、このみことばは少々難解です。…と言いますのは、幾つかの解釈が成り立つからです。しかし、私はこう考えています。ここで言われている『強い人』というのは悪魔…、つまり、サタンのことではないでしょうか？…と言いますのも、どうか、もう1度、今日の平行記事である、ルカ 11 章をご覧ください。当たり前ですが、平行記事と言いますのは、同じ出来事を、別々の人物がそれぞれ別に書き留めたものでありますけれども、そこに書き記された内容は、“同じ一つの内容”なので、それら両方で教えられている内容は、同じ理解…、同じ解釈が成り立つはずであります。

実は、私たちが今日学んでいる内容は、ルカの方がより詳しく書き記してくれています。ですから、このルカ 11:20-23 を参考にしたいと思います。そこには、こう記されています、『20 しかし、わたしが、神の指によって悪霊どもを追い出しているのなら、神の国はあなたがたに来ているのです。 21 強い人が十分に武装して自分の家を守っているときには、その持ち物は安全です。 22 しかし、もっと強い者が襲って来て彼に打ち勝つと、彼の頼みにしていた武具を奪い、分捕り品を分けます。 23 わたしの味方でない者はわたしに逆らう者であり、わたしとともに集めない者は散らす者です。』

⇒このみことばは、もう何年も前に学んだみことばであります。今、それを詳しく復習していく時間は無いのですが、ここ 21 節で言われている『強い人』と言いますのは、サタンか、あるいは、悪霊たちのことでもあります。この世の中が皆、一致して、サタンの策略通りに動いている間は、その中で、争いやいざごは起こりません。しかし、そういった中に、22 節で言われている、『もっと強い人』つまり、神が遣わされた救い主が現われ、悪霊たちを追い出したり、サタンに付き従っている民たちを奪っていきますと、そのサタンのグループ内で混乱が起こります。ここでは、そういったことについて教えてください。

だから、イエス様は、例えば、マタイ 10 章で、こんな風におっしゃっておられます、『34 わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思ってはなりません。わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。 35 なぜなら、わたしは人をその父に、娘をその母に、嫁をそのしゅうとめに逆らわせるために来たからです。 36 さらに、家族の者がその人の敵となります。 37 わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。 38 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。 39 自分のいのちを自分のものとした者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとし、』(マタイ 10:34-39)

⇒ここでイエス様が教えてくださいのように、イエス様がもたらしてくださるものは、何も、救いや喜び、感謝、平安や平和、一致だけではありません！私たちがイエス様を信じることによって、時と場合によっては、その家族の中や親しい間柄の中で、いざごが起こるかも知れません。…と言いますのは、エペソ 2 章のみことばが教えてくださる通りに、生まれながらの私たち人間たちは皆、サタンが作った潮流(潮流の流れ)に乗ってしまっているからです。そうでしょ？

そのような…、サタンが一時的に支配しているような、この世の中にイエス様は来てくださったのです！
イエス様は、そのような世の中であって、悪魔の手中にはまって、永遠の裁きへと向かっていた私や皆さんのことを救い出してくださいました。だから、私たち真理を知った者たちと、まだ、真理を知らない者たちの中で、意見の違いや衝突が起こってしまうのです。

さあ、どうぞ、もう一度、今日のみことばであるマルコ3:27に戻ってください。…ここで、イエス様は、私たち人間に救いをもたらすための…、言わば、“戦略”について教えてください。サタンの作った罠の中にある、多くの人間たちを救い出すためには、まず、その将(≒リーダー)であるサタンと戦って、勝利を収めるべきです。…皆さん、覚えてくださっています？ イエス様は、公の生涯に入って、1番最初に何をなさいました？ ⇒ マタイ伝 4章…、断食の後で、サタンの誘惑に勝利されたでしょ！ いえ、それだけではありません。その後、イエス様は、何度も、悪霊たちに勝負を挑まれて？ その悪霊たちを追い出されました。…だから、先程見たルカ11章で、イエス様は、『わたしが、神の指によって悪霊どもを追い出しているのなら、神の国はあなたがたに来ている…』とおっしゃられたのです。…と言いますのは、もうすぐ、そこまで、救いの御業が…、神の約束の成就が来ていたからです。

一体、どうして、イエス様が悪魔や悪霊たちに勝利できたか？ ⇒ 答えは簡単です。イエス様が、全知全能なる神だからです。イエス様は、サタンとその使いである悪霊たちに勝利なさいました。そうして、その罠の中にいた私たちを救い出すことができたのです！ なんだか、『略奪』なんていう翻訳をされると、つい悪いイメージを持ってしまいかも知れませんか？ …でも、イエス様こそ、私たちがサタンのグループの中から救い出すことができる“約束の救い主”なのです！

Ⅲ・神の恵みを拒み、それを否定する者たちの末路！（28-30節）

最後、3つ目に、今日のみことばが教えてくれていることは、**そのような神様の恵みを拒み…、それを“否定”する者たちが行き着くはずの末路について、**であります。どうぞ、今日のみことばの内、マルコ3:28-30をご覧ください。そこには、こう記されてあります。

28 まことに、あなたがたに告げます。人はその犯すどんな罪も赦していただけます。また、神をけがすことを言っても、それはみな赦していただけます。

29 しかし、聖霊をけがす者はだれでも、永遠に赦されず、とこしえの罪に定められます。」

30 このように言われたのは、彼らが、「イエスは、汚れた霊につかわれている」と言っていたからである。

● 赦される 罪とは？

ここ 28 節で、イエス様は、特に重要な話をする時に使う“決まり文句”を使っておられます。それは、『まことに、あなたがたに告げます…』という言い回しです。ここで、イエス様は、とてとても…、重要なことを教えてください。でも、実は、ここのみことばもまた、非常に難解である…、解釈が難しいとされています。

まず、ここのみことばが教えてくれていることは、大きく分けて2つあります。その1つは、人は、その犯す“どんな罪であっても”赦していただけるということと…、もう1つは、決して、「赦されない罪」がある！ということ。しかし、これら2つの教えは、矛盾しないのでしょうか？

もちろん、イエス様の教えに…、また、神様の教えに矛盾はありません。…ということで、まずは、どんな罪でも赦されるという教えの方を見ていきましょう。まず、ここ 28 節で、イエス様がおっしゃった『**どんな罪**』という表現に注目してください。実は、ここで、『**どんな**…』と訳されてあるギリシヤ語の言葉は、「πᾶσι」という形容詞が使われてあります。この言葉は、基本的に「あらゆる種類の…」という意味の形容詞で、

神様が赦してくださる罪は、それこそ、殺人であろうと、強盗であろうと、(あるいは自殺であろうと)いかなる種類の罪も例外ではない！ということを教えてください。

● 赦されない 罪とは？

じゃあ、難しいのは、その後半の“赦されない”罪がいかなるものなのか？ 果たして、そのようなものがあるのかどうか、ということです。簡単に言うならば、つい先程、見たように、基本的に神様はどんな種類の罪だって赦して下さいます。神様の前に、「こういった種類の罪だけはご法度である！」というような線引きは無いのです。

でも、どうぞ、ここ 28 節の後半をご覧ください。ここで、イエス様は、わざわざ、私たちが誤解しないよう、「赦されない罪に関するヒント」を与えてくださっています。それは、神を汚すことを“言う”ことではありません。しかし、29 節が教えてくれているように、『**聖霊をけがす**』なら、そのような者は誰でも赦されない！というわけです。…いかがでしょう？「神をけがすことを言う」と、「聖霊をけがす」のに、どういった“違い”があるのでしょうか？

⇒ 恐らく、それは、こういった違いです。まず、前者の「神を汚すことを言う」というのは、単純に、真の神様のことを分らないで、その神様のことを悪く言うてしまうことです。これは、世の中の多くの未信者たちが犯してしまっている過ちです。しかし、後者の方の「聖霊をけがす」というのは、この当時の律法学者やパリサイ人たちに当てはまることだろうと思います。彼らは、聖書のみことばに通じ、何が真理で…、何が真理でないか、少なくとも、当時の民衆たちと比べると、遥かに分かっていたはず。皆さんも、ご存じのように、私たち人間を救ってくださるのは、神様の御働きであり…、特に、聖霊なる神が私たちにしてくださる御業によります。

だから、例えば、ヨハネ 16:8 に、『**その方(＝助け主なる聖霊)が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。**』とあるのです。…と言いますのは、聖霊なる神様が、私たち人間の心に働きかけて、罪や義について…、あるいは、私たちが受けるべき裁きに関する理解を与えてくださるのです。だから、1 コリント 12 章にも、『**…聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。**』と教えられてあるのです。

しかし、この当時、律法学者たちは、聖書のみことばに通じているがゆえに、このイエス様こそが神の違わされた約束の救い主である…、ただの人間ではない！ということ、ある程度、分かっていたのではないのでしょうか？ …分かっている、なお、そのイエス様のことを非難し…、そのイエス様のことを、悪魔呼ばわりして…、とうとう、あの十字架へと追いやったのです。良いですか？ …彼ら律法学者たちは、せっかく、自分たちに差し伸べられてきた救いのチャンスを、自分たち自身の手で握りつぶしてしまったのです！ …果たして、そんな彼らが救われるでしょうか？ …いいえ、彼らは、自らの選択で、「私は、イエス・キリストを信じない！ 認めない！」そう選択したのです！ …その結果が、今日のみことばの30節です、彼ら律法学者たちは、イエス様のことを、ある程度、分かっているが、そのイエス様のことを、「あいつは汚れた霊につかわれている！ あいつは悪魔のような存在だ！」というような…、神を冒すだけではなく…、その神様からの救いの手を拒むような…、神の導きを払いのけるような選択を、彼ら律法学者たちはしてしまいました。だから、彼らに救いは無いのです。…それが、今の私の解釈…、理解です。

< 励ましの言葉 >

神様が用意してくださった救いの道を歩むことが無ければ、その者が行き着く先は、黙示録 20 章やマタイ 25 章が教えてくれている通り、永遠の裁きであり…、終わることのない苦しみであります。でも、皆さん、彼ら律法学者たちが、そのような裁きを受けるのは、神様のせいだと思われませんか？ 彼らが救われなかったのは、神様の側に“何かの非”があったからでしょうか？ …いいえ、彼らが救われなかったのは、彼ら自身の罪のゆえであり…、彼ら自身が選択した結果なのです。そうでしょ？

実は、今日引用したルカ 11 章のみことばで、イエス様は、こんな言葉をかけてくださっていました。ルカ 11:23、『わたしの味方でない者はわたしに逆らう者であり、わたしとともに集めない者は散らす者です。』って…。私たち人間は、大きく2つに分けることができます。それは、神の恵みによって救われる者たちと、救われ得ない者たちです。それ以外の…、3つ目のグループは存在しません。ここで、イエス様は、「積極的に、わたしのことを支持し、わたしに味方しない者は皆、わたしに逆らう者であり…、また、このイエス様と一緒に働こうとしない者もまた、イエス様に逆らう者である…、つまりは、救われ得ない！」ということを教えてください。果たして、今日、このメッセージを聞いてくださっているあなたは、イエス様のことを積極的に愛し…、そのイエス様に喜んで従おうとしておられるでしょうか？…あるいは、ただ、何となく…、聖書のメッセージを聞いて、自分がクリスチャンになったような気になってしまっただけではおられないでしょうか？

これは、皆さん方の永遠を左右することです。…ですから、どうか、そういったことを、決して、うやむやにすることなく…、イエス様があの十字架と復活によって備えてくださった救いの恵みをムダにすることなく、神様の与えてくださる救いを、間違いなく、ご自分のものとしていただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。